

オウム対策住民協議会ニュース

烏山地域オウム
真理教(現アレフ)
対策住民協議会

新年のご挨拶

「観察処分」期間更新の 闘いを前面に

烏山地域オウム真理教対策住民協議会会長 海老澤一良

新年おめでとうございます。住民協議会がオウム真理教(アレフ・ひかりの輪)と対決する活動も、昨年12月で8年目にはいりました。このように長期間活動を維持できているのは、住民協議会会員の地道な活動の積み重ねと、烏山地域を始め世田谷区民のみならずの協力や激励又、行政の援助、町会・自治会、商店会、PTAなど各種団体のご協力があったからこそです。お礼申し上げます。

さて、昨年は新たな試みとして「リサイクルバザー」を催しました。活動資金を集める事と協議会の活動を多くの方に認識して頂くことが目的でした。お陰様で大成功で今年も開催を考えています。抗議集会・学習会は時間帯を夜から土曜日の午後にしたことで、新たな参加者の増加や多くの住民にアピールができました。監視活動、募金活動、協議会ニュースなど日常的におこなっている活動のより一層の充実も図りたいと考えています。

オウム真理教の現状

昨年、公安調査庁の発表で、オウム真理教の信者数が約1650名から約150名減少したと報道されました。内部分裂による教団への不信からの脱会が多いようです。住民協議会の粘り強い活動が、オウム真理教を追い詰めている結果です。一方、現在いる信者の多くは、地下鉄サリン事件以前からの信者という事実も、オウム真理教の恐ろしさといえます。特に「アレフ」の信者は元教祖、麻原彰晃への崇拜が一層強くなっているのも不安材料です。今後再分裂の可能性も充分考えられます。同時に先鋭的な派閥が過激な行動に出ることもありえます。監視活動の内容充実と強化が必要と考えています。

「観察処分」期間更新の活動を大規模に

2009年1月末日で「観察処分」の期間が終了します。「無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する法律」(団体規制法)第2章第5条、「公安審査委員会」は、その団体の活動を明

かにする必要ある場合は、公安調査庁により3年の期間を定め観察処分を行うことができる。」(要旨)により、オウム真理教の活動が規制されています。

住民協議会では過去2回2002年と2005年に「観察処分」期間更新の署名活動をおこないました。公安審査委員会には「住民がオウム真理教に対し危険を感じている。」と評価していただき期間更新の大きな力となりました。今回もみなさまの協力を得て必ず成功させたいと考えています。又、オウム真理教による犯罪被害者救済立法は、オウム真理教施設がある地域住民にとっても、重要な問題です。この法律を制定し教団を財政的にも規制する事が必要です。サリン被害者に対する賠償金の残額25億円を国が立替え、教団から取りたてる法律を実現させるための要請行動など含め活動していきます。今年もよろしく願いいたします。

お詫び 住民協議会ニュース第71号(12月17日発行)「監視小屋たより」の記事に一部誤解を招く不正確な部分がありました。ことを関係者の方々に深くお詫びいたします。

編集委員長 宮崎隆一

烏山地域オウム真理教対策住民協議会が催す

リサイクルバザー

新品いっぱい

4月12日(土) 10時

烏山区民センター広場
(雨天決行)

物品提供をお願いします

7年間活動を続けてきた
住民協議会にご協力
お願いします。

次号、3月17日発行ニュースにて場所・時間を詳しくお知らせいたします。

オウム解体・解散を目的に活動を続けて8年目に入りました! 「協議会ニュース」の発行、毎日の監視活動、抗議集会・学習会など烏山地域住民が手を取り合って、ここまで来ました。区内の大学新生へのオウム教団の危険性、カルト集団の入会阻止のパンフレットの配布も、今年で5回目になります。

以上の活動を続けて行くには、大きな活動費が必要です。地域のイベントなどで募金活動を行っていますが、まだまだ足りません。そこで4月12日(土)10:00~リサイクルバザーにより活動資金を募ることとなりました。当日会場へおいで下さることはもちろん、事前に皆様の家庭で不要となりました品物(新品)、又、中古品の場合はクリーニング済みの物など、寄付をしていただきたいと思います。どうぞ私たちの活動の一助となるよう力をお貸しください。

～受付商品～

- 石けん・アクセサリ・乾物類・おもちゃ・ぬいぐるみ・時計・お皿・お茶わん・陶器類・ポット・ハンドバック・シーツ・タオル・ブラウス・セーター・シャツ・子ども服・ジャケットなど

次回の予定は3月17日(月)です。

烏山地域オウム真理教（現アレフ）対策住民協議会」主な活動経過

2000年12月に立ち上げられた住民協議会も早いもので、昨年末で丸7年を終えました。この間の活動は毎月発行のニュースでお伝えしている通りですが、集約版を、全区版発行に伴う2002年9月と2004年10月の2回掲載しました。今回は、その後の3年の活動を、下の一覧表で振り返ってみました。この間、学習会は15回を重ね、取材や署名活動、昨年新しく試み

た「リサイクルバザー」が目玉を引く活動でした。

実行委員会や総会などの定例活動はこの表には載せませんでしたが、オウム施設の監視活動は、毎日行われていることを忘れてはなりません。これらの活動は、皆様の支援があってはじめてできているものです。これから変わらぬご協力とご支援をお願いいたします。

掲載年月	内容
2004 11	「団体規制法」存続を求める署名を国に提出・要請行動
2004 12	「団体規制法」存続決定
2005 03	3月19日(土)「あれから10年」～地下鉄サリン事件の被害者は今～集会参加
2005 05	5月23日(月)第10回抗議デモ・学習会 弁護士滝本太郎氏「オウム真理教は今、何を考えているか？」
2005 11	広報部 越谷市大里オウム教団食品工場取材
2005 11	公安調査庁へ観察処分期間更新の署名持参で請願行動
2005 12	11月18日(金)第11回抗議デモ・学習会 日本脱カルト研究会代表理事・東北学院大学名誉教授浅見定雄氏「教団が起こした罪を、信者はどう考える」
2005 12	世田谷区主催講演会 毎日新聞特別編集委員 牧太郎氏「オウム真理教の問題を風化させない」に参加
2006 02	1月2日(月)オウム真理教に対する「観察処分」期間の3年間更新決定
2006 03	広報部 名古屋市中区老松学区道場取材
2006 03	3月20日(月)「オウム真理教破産から10年…被害者はいま」へ参加
2006 04	広報部 上九一色村取材
2006 04	オウム対策住民協議会ホームページリニューアル
2006 04	6月17日(土)第12回抗議デモ・学習会 元上九一色村富士ヶ嶺オウム真理教対策委員会 副委員長竹内精一氏「オウム真理教との闘争の原点、上九一色の闘い」

掲載年月	内容
2006 06	オウム教団のセミナー反対抗議行動
2006 10	広報部 長野県小諸市オウム居住地取材
2006 10	「オウム真理教によるテロ犯罪被害者救出を！」集会に参加
2006 12	11月14日(火)第13回抗議デモ・学習会 朝日新聞社会部記者 中井大助氏「取材からみたオウム真理教」
2007 02	世田谷区主催講演会 ジャーナリスト 江川詔子氏「オウム真理教の問題を風化させない」に参加
2007 02	広報部 横浜市日の出地区オウム居住施設取材
2007 02	オウム教団のセミナー開催に対し抗議行動
2007 03	2月22日(木)政府へのオウム反対要請(熊本区長、倉本会長他)
2007 04	上祐代表・新団体準備グループ施設視察
2007 05	4月14日(土)リサイクルバザー
2007 06	5月12日(土)第14回抗議デモ・学習会 産経新聞社会部記者 加藤達也氏「脱麻原」と言う上祐の設立する新団体とは」
2007 09	広報部 台東区のオウム施設取材
2007 11	10月13日(土)第15回抗議デモ・学習会 弁護士滝本太郎氏「分裂したオウムと今後の私達の闘い」
2007 11	広報部 荒川区のオウム施設取材
2007 12	世田谷区主催講演会 元公安調査庁調査第二部長菅沼光弘氏「オウム真理教の問題を風化させない」に参加

世田谷区主催講演会「オウム真理教の問題を風化させない」

昨年末12月11日烏山区民センターホールにて、「オウム真理教の問題を風化させない」をテーマとする講演会が世田谷区の主催で開催された。師走の忙しい中、約300人が集まった。最初に、熊本哲之区長が挨拶し、萩原危機管理室長が、オウム真理教への世田谷区の取組み、特に、住民協議会の活動を報告した。その後、元公安調査庁調査第二部長菅沼光弘氏が講演した。

菅沼氏は、冒頭、オウム真理教問題は徹底的に調査分析されずに、「囲い込んで押え込んでゆく」方法で終結されようとしているが、宗教法人や信教の自由とかのお題目ではなく、その団体が何をし、又は、何をしようとしたかを徹底分析する必要があると述べた。更に、捜査での調査分析が不十分だったため、宗教法人の解散や破防法の適用にまで至らず、現在もなお1500人から1600人の信者を擁して宗教活動を続けている。又、オウム真理教が起こした一連の事件の目的を「日

本を奪いオウム真理教の国を作ること」とし、そのために、大量殺人兵器サリンを使用したテロ(9.11と同じ)をおこし、銃火器の製造、生物化学兵器の研究・製造・実験、更には、核兵器の研究まで行っていたと指摘した。実は、大量殺人兵器の使用は世界の破滅に直結するゆえに、米ソでさえ躊躇したことというのに、オウムは世界で初めて実行した。これら90年代初頭の一連の事件は、ソ連崩壊が時代背景にあり、オウム真理教は、ソ連の中核に上祐を送り込み、金で取り入り、核や軍事技術を買収し、武装していった。つまり、オウム真理教への対応には国際的視点も必要なのである。

上記のような危険なオウム真理教を、「したこと、又は、しようとしたこと」で徹底的に分析し、二度とこのような事件を起こさせないことが「オウム真理教の問題を風化させないことだ」と最後に締めくくった。

住民協議会活動報告

1月 9日(水)	事務局会議
1月 22日(火)	実行委員会
1月 22日(火)	「オウム真理教による犯罪被害者救済立法」での対公明党要請行動に参加
1月 24日(木)	「オウム真理教による犯罪被害者救済立法」での対民主党要請行動に参加
1月 28日(月)	臨時事務局会議

2月 1日(金)	「オウム真理教による犯罪被害者救済立法」について勉強会
2月 2日(土)	「中学生のつどい」会場で募金活動
2月 4日(月)	協議会ニュース72号初校正
2月 5日(火)	事務局会議
2月 7日(木)	協議会ニュース72号再校正
2月 11日(火)	「からすやま新年子どもまつり」会場で募金活動
2月 18日(月)	協議会ニュース72号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。